

うえはら

やまたらけ

MARCH

No. 84

2018

YAMADARAKE

つくりながら、暮らす。



移住者空き家リノベーション

家族で早川に やってきた!

●文＝上原佑貴



連れ合いと子ども3人、家族で早川町へ移り住んできたのは、二〇一七年春のこと。夫婦はそれぞれ東京、神奈川の出身、いまでも両親は関東に住んでいます。ここへ移住してくる直前までは、僕たちは愛媛の片田舎で暮らしていました。終盤の数年間に、エネルギー問題とそれに伴う地域の環境問題に向き合うことになり、その中でもう一度、暮らしを見つめ直し、子育てから考え直したいと思うようになっていました。そこで再移住を

決めました。

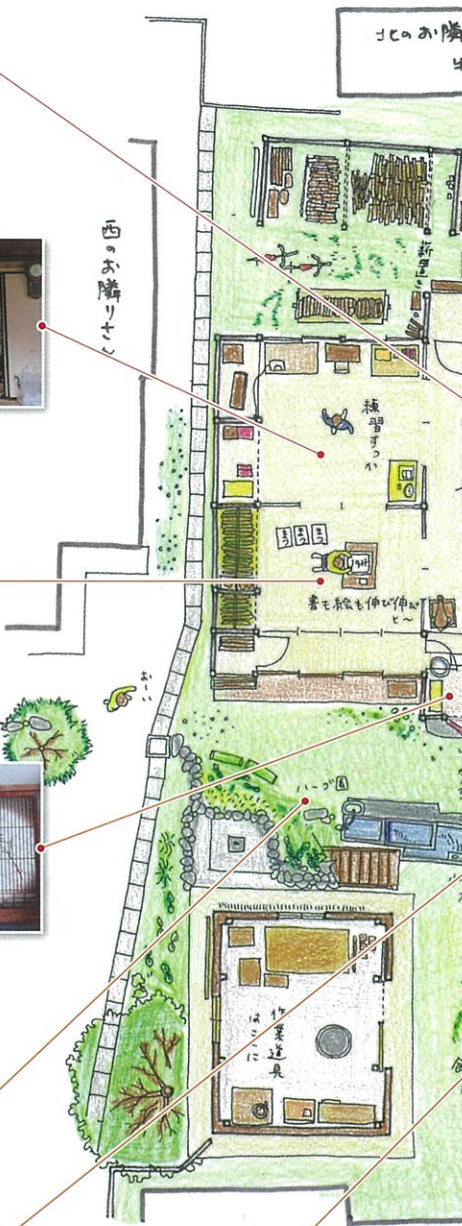
かつて「早川入り」と呼ばれたこの山間地域は、まったくの見知らぬ土地ではありませんでした。町



ここで「家」を考える

早川町に暮らすことを決めたものの、家を探さなければならま

民全員の生活や生き様に焦点を当てた『2000人のホームペー
ジ』の取材やイベントの手伝いで、
学生の頃に何度も訪れたことがあ
ります。東京の住宅地出身の僕
が、初めて集落やその成り立ちと
いうものを目の当たりにした場
所。十数年ぶり、こう言っては怒ら
れるかもしれませんが、なんと
く「帰ってきた」という思いでした。



せん。空き家情報は、僕がいま勤めているNPO・日本上流文化圏研究所の協力を得ました。「こういう田舎の地域づくりには、”空き家バンク”のようなものが必須だ！」などと、学生時にはこんな青臭い提案を得意げにしていたのですが、その取り組みが研究所に根付いていたことに、感慨深いものがありました。

いくつか紹介してもらおう中で、ピンと来た物件がありました。それがいま家族で過ごしている奈良

田集落の住宅で、築60年近く、空き家になって40年以上が過ぎているにもかかわらず、何と申うか、愛がある。こまめに手入れがなされ、家主がたびたび管理に戻ってきている様子が見て取れます。家探しに一人付き合わせていた息子も「この家がいい！」とすぐさま言い出しました。

奈良田集落は南アルプス公園線（県道37号線）をたどる早川町内の最奥の集落。この長い距離を、何十年もの期間を通い続けた

家主さんのこの「家」への想い、暮らし続ける集落の人たちへの気持ちは、測り知れません。でも僕たちは、そういったものを全て受け継ぐつもりで、この場所を拠点に暮らししていくことを決めました。

僕たちのリノベーション

さあ、ここでどんな暮らしをしていこう。それを考えることは、とても大事なことです。僕たち夫婦は、愛媛からの再移住を考え始めた経緯もあって、自分たちの暮らしにも公共性を意識して、織り込ませたような暮らしをしたいと思っていました。「私設の公民館」とでも言うような場所にしたい。

よく管理がなされていました。が、やはり何十年も棲んでいなかった物件です。残念ながら中の間が根太から傷んでいました。古い風呂釜の影響で、浴室も床下から直す必要がありそう。特に裏手に湿気がたまりやすい状況で、1階部の畳はほとんどダメ、部分的に床板もひどく劣化している室が

があります。

そうだ、子どもたちがドタドタし
やすいよう、思い切って1階は全部
フローリングにしてみよう。友達
も入り乱れてそんな風になったら、
どんなに愉快だろう。アイデアは
ばっちり当たり、全国日本民謡講
習会へ向けた「奈良田追分」(やま
だらけN.O. 82を参照)の、夜な夜な
練習会場としても機能しました。
しばらく暗いままだった住宅から
漏れ出た灯りには、三味線の音や、
地元の人が分かり切ったステップ
が混じり、予想以上の愉快さです。

作りながら、暮らす

やれる補修は自分でやります。

母屋と一体化している裏の物置屋
根は、腐ったトタンを透明ポリカに
張り替え、奥の間にも光が入るよ
うになりました。倉庫屋上は勾配
を補修して雨水排水を改善、ここ
への登る階段の鉄柱基部はコンク
リで補強、屋根や雨樋、煙突の部
分的な補修、使えなくなった畳の
藁は畑にすき込み、廃材は小切つ

て薪に…。それまでの経験だけでな
く、知らないことはインターネット
で調べたりしながら、梅雨に入るま
では、出勤のない週末や祝祭日は、
ほとんど家の手入れでした。

もちろんプロに任せた部分が多

くあります。ガス、水道、電気といっ
たインフラは当然のこと、浴室を含
め、1階部の床補修は望月工務店
(やまだらけN.O. 47参照)にお願
いしました。仕上がりが良いよう
に、結局床下から手を入れること

になりました。

フローリング化は順番に、一部屋
ごとに取り掛かっていきます。僕た
ち家族はと言えば、ときには廊下
で、2階の寝室で、縁側や畳をはぎ
取った古い床板の上、あるいは仕上
がった部屋に、まだ開封していない
引越越し荷物も含め、ちゃぶ台や
最低限の暮らしの道具とともに、
工事に合わせて生活を移動させて
いきます。調理はすべてカセットコ
ンロ。これがなかなか面白く、自分
たちの暮らしの場を隅々まで良く
知る、よい機会となりました。ま
た、平成29年度に創設された『早川
町移住者住宅改修費補助金』制度
は、思い切った改修を決意する大
きな助けとなりました。



それから、これから

工事が完了したのは6月の半ば頃。当初ほどのペースではありませんが、現在も自分でできる手入れは続けています。

奈良田集落での暮らしで助かっているのは、水が豊富なこと。地区で管理している水道は、小さな集落には十分な水源があり、夏の畑の水やりにも困りません。前に居住していた地域では農業に携わっていたのですが、水不足に悩ましい地方であったこともあり、ありがたみに特に感じ入っています。

3人の子どもたち、それぞれの誕生日会も、この家で催すことができました。学校の友達やその家族、集落でお世

話になっている皆さん、そして仲の良い隣人が駆けつけてくれる、それにことのほかホッとしています。階段

移住者空き家リノベーション



を上下に行ったりきたり、玄関を出たり入ったり、席の周りを自由に駆け回る様子には、してやったりという思いです。

最年少の娘は未就学ですが、町外はもちろんのこと、町内の保育

所にも通うには遠いので、連れ合いは、日中はこの子とずっと一緒に過ごしています。辺りを歩き回り、しばらく小さい子がいなかったこの集落の、ほぼ笑ましい景色となっているのではないのでしょうか。そのおか

げで胡桃や栃の実拾い、地蜂蜜やメープルシロップ採集の手入れ、家庭菜園や農産物加工、周囲の森林や山のことを学び、地元で熱心に取り組んできた伝統民謡や踊りの保存・継承活動にも加えてもらうことができました。普段、集落で過ごす時間の短い僕の存在感が心もとないほどです。

「奈良田ハウスにしてよかったでしょう？ オレが選んだんだよ！」家探しに連れてきていた息子が、調子に乗ってこんなことを言っています。でもその通りかも。この子たち抜きには決められなかったような気がします。子どもたちがここで健やかに育っていく、その大きな責任を、僕たちは負っている。それには決してへこたれないよ。そのためにも、これまでのようにお世話になるばかりでなく、集落の担い手として、これからは貢献していきます。復活したこの「家」を拠点に、さあ、張り切っていこう！



4月

21~22日

南アルプス生態邑イベント

早川ファミリーキャンプ探して食べよう！春の山菜

木々の芽吹いた新緑の森へ、
家族で山野草を求めて探検に出かけよう！
採れたての食材を使って、
たき火でアウトドアクッキングにも挑戦！
青空の下で採れたて山菜を天ぷらに♪
全身で春の森の空気を感じましょう。
ご宿泊は家族ごとに森のコテージをご用意します。

日程：2018年4月21日(土)～4月22日(日) 1泊2日

対象：5歳以上のお子様のいるご家族

参加費：大人 12,000円、子ども 8,000円 (共に1泊3食付、税込)

定員：7組

締切：2018年4月14日(土) (先着・定員になり次第締切)



4月25日

写仏体験@功德院・青蓮華龍王図

映水が納めた天井画と同じ絵を写仏してみませんか？

山梨県甲斐市にある「浄土宗・功德院幸福寺」
に納めさせていただいた天井画『青蓮華龍王図』の原画を基に
制作した下図を使って写仏体験をさせていただきます。

筆の持ち方や線の練習から指導致しますので、
どなたでも気軽にご参加いただけます。

天井画に描かれた青蓮華龍王に見守られながら、
皆さんの青蓮華龍王を描き上げましょう。

日時：2018年4月25日(水) 13時00分～15時00分

場所：幸福山・功德院／山梨県甲斐市中下条1621

費用：1,500円

定員：20名

お問合せ・お申込み：映水公式サイト、
または公式フェイスブックのお問い合わせボタンをご利用下さい。
※フェイスブックは左のページにてご案内しております。



☆硯、墨、筆など、写仏に必要な道具は全て貸し出し致します。

☆費用には線の練習用のお手本と紙、功德院オリジナル青蓮華龍王図の下図と写仏用の和紙2枚が含まれています。

☆オリジナル手本セット(500円)やオススメの筆や塗香などの販売も致します。

6月8日～

7月1日

南アルプス生態邑イベント

ホタル見ナイトプラン

初夏の夜にホタル観賞に出かけませんか？

月と星の灯りしか入らない夜の森の中、
静かな池の上を舞う幻想的なホタルの光をお楽しみください。
池のほとりで待っていると、目の前にホタルが飛んできくことも。
ガイドが一緒なので、真っ暗な夜の森でも安心です。

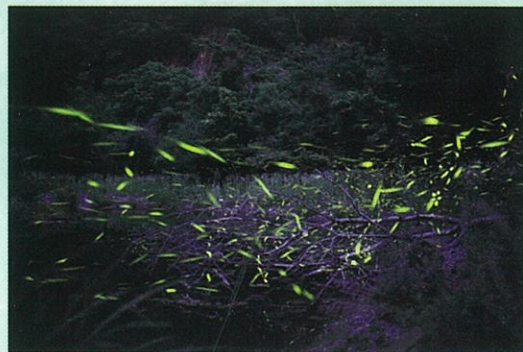
日程：2018年6月8日(金)～7月1日(日) 期間中のお好きな1泊2日

料金：大人 8,000円、子ども 7,300円 (共に1泊2食付、税込)

※観察会のみのご参加も可能です。(大人1,500円、子ども1,000円)

定員：25名/日

締切：宿泊日の3日前まで



2018
春

早川町観光イベントニュース！

3月18日

6月30日

映水の写仏講座

写仏をしてみませんか？

写仏とは写経と同じ仏道のひとつです。
仏様の描かれた絵の上に薄い和紙をのせて、
お手本をなぞるようにして描くので、初めての方でも気軽に体験していただけます。
心と呼吸を姿勢を整えて線を一心に引く時間は、
日々の喧騒で押し流されるようにして生きる私たちにとって時が止まったような
貴重なひとときになります。

初めて筆を持つ方でも、筆の持ち方や線を引く練習から始めさせていただくのでご安心ください。
最初は緊張して手が震えてしまう方もいらっしゃると思いますが、
最後には必ず皆さんひとりひとりのお手元にご自身の仏様が出来上がります。

いつの間にか時間が過ぎていた。
こんなにゆったりした時間を過ごしたのはいつぶりだろう。
体験された方は、皆さま口を揃えてそうおっしゃいます。
それは、少しだけ仏様のお近くへ行けた時間なのだと思います。

皆さまが心穏やかな時間を過ごせる入り口をご用意してお待ちしております。



【身延山・武井坊で写仏体験】

日時：2018年3月18日(日)10:30～12:30 13:30～15:30

定員：20名

参加費：1,500円（お手本、色紙をお持ち帰り頂けます）

*硯、墨、筆など写仏に必要なお道具はご用意します。

*必要な方は眼鏡をご用意ください。

場所：武井坊 山梨県南巨摩郡身延町身延3583

申し込み・問い合わせ：武井坊 090-5429-9444

メール：imfo@takeibou.com



【身延山学講座・特別公演「やさしい写仏体験」】

日時：2018年6月30日(土)14:30～16:30

定員：20名（筆、お手本、写仏用和紙2枚をお持ち帰り頂けます）

参加費：2,000円

*硯、墨など写仏に必要なお道具はご用意します。

*必要な方は眼鏡をご用意ください。

場所：身延山大学図書館5階

後援：身延町教育委員会・南部町教育委員会・早川町教育委員会

申し込み・問い合わせ：身延山図書館

身延山学講座係 0556-62-9507 メール：usami@min.ac.jp

イベント内容は
映水の公式フェイスブックにて。
問い合わせや申し込みは、
公式サイトとフェイスブックで受け付けています。

・公式サイト <http://eisui.net>
・公式facebook <https://www.facebook.com/eisui0220>

ヤマセミ

新商品のお知らせ

ヤマセミの新商品！

ヨモギラスクときな粉ラスク

ヤマセミこだわりの、ひまわり卵100%使用で無添加
の早川町産のヨモギをたっぷり使った「ヨモギシフォンケーキ」と
香ばしい国産黒須きな粉を使った「きな粉シフォンケーキ」が
美味しいラスクになりました！

ヤマセミこだわりの無添加シフォンケーキのラスクを是非ご賞味下さい。
食事処やませみで販売しております。

ヨモギラスク、きな粉ラスク共に200円。
（素材は時期により異なります）



看板をリニューアルしました！



- No.02 早川のこどもたち -

今回のやまっこの冒険では、早川のこどもたちにフォーカスしました。

早川町にはどんな子ども向け体験活動があり、どんな支援団体があるのでしょうか。そして子どもたちは、そこでどのように育っているのでしょうか。

それでは、早川町の活動をのぞいてみましょう!

早川子どもクラブ



△冬の寒さもとことん満喫!

「自分の責任で自由に遊ぶ」場所、冒険遊び場。子どもたちの「やってみたい!」という想いを大切にするため、出来る限り制限を無くしました。

土、木、水などの自然素材と、本物の工具やかまどの火を使用し、失敗や怪我を含め様々な体験を通して自ら育っていける場所を実現しました。

また、その他の活動として、地域の伝統を学ぶ体験活動も企画、運営しています。



△夏は川で思いきり弾ける!



北っ子応援団

日本一小さな町の小さな「早川北小学校」。『北っ子応援団』は、北小の保護者と保護者OBOGが中心になって活動しています。

平成24年3月時点、北小は全校児童4人にまで落ち込み、存続の危機がささやかれていました。当時の保護者も、少人数の学校の良さ、学校の教育方針に魅力を感じていたものの、この状況に限界を感じていました。

しかし4人の児童の「北小に通い続けたい」「北小を卒業したい」という強い想いに突き動かされ、移住者の受け入れをサポートする団体を立ち上げました。それが『北っ子応援団』です。移住家族の相談役や、学校と地域と家族を結ぶ役割を担っています。

小さな「早川北小学校」は、地域の支えなしにはやっていけません。それが大きな魅力でもあります。また『北っ子応援団』には、実際に移住してきた家族も多く参加しています。だからこそ、同じ視点で相談に乗れるはず。

早川町での子育てに関心のある方は、ぜひお気軽にお問い合わせください!



読者の声

次回予告! (2018年6月上旬お届け)

No.85 「よみがえる旅籠」

昨年、赤沢集落の旅籠が甦りました。外国人向けのゲストハウスとして営業を再開した大阪屋旅館。赤沢の歴史とこれからの方向性を紹介します。(※予告では今号で「よみがえる旅籠」を取り上げる予定でしたが、諸事情により入れ替えて発行しております。)

▶使っている道具が壊れたときなど、修理することより買い換えることが先に思いついてしまいます。修理するだけでなく、その時に「新しいモノ」を継ぎ足し、より自分にとって使いやすい道具にしていこう工夫や発想を見習いたいと思いました。(奈良県川上村 M さん)

編集部: モノが溢れている今と違い、手に入るものが少なかった時代、早川の人は常に何かを作る必要がありました。それが今でも残っていて、受け継がれているのは本当に素敵だなと感じます。

やまだらけ定期購読のお願い

「やまだらけ」では、今後も「山の暮らしの価値」と、それを後世に守り伝える人々の活動を応援して参ります。

やまだらけは、広告料と会員の皆様の会費で成り立っています。会員の皆様には、やまだらけを毎月お届けいたします。会員として、この取り組みを支えてください。

〔年会費〕正会員:10,000円 賛助会員:3,000円

〔振込先〕ゆうちょ銀行 ○二九店
当座 0095644

〔名義人〕特定非営利活動法人
日本上流文化圏研究所

●編集後記: 移住には色々と大きな決断が伴います。お子さんがいらっしゃれば尚の事、住環境に敏感になりますし、より良い環境を提供したいと思うのは親としても自然な事だと思います。素敵な家が見つかり、地域にも溶け込み、尊重しあい、助け合い、これからの生活が益々楽しみです!

山を覗けば宝の山

やまだらけ

発行元/NPO 法人 日本上流文化圏研究所
住所/〒409-2727 山梨県南巨摩郡早川町薬袋 430
電話/0556-45-2160 FAX/0556-45-2268
<http://www.joryuken.net/>